

遠隔授業の履修支援

福井大医学部センターなどシステム開発

掲示板で動画配信
選択簡単に



開発した遠隔授業システムを説明する
安倍センター長(左)ら=26日、永平寺
町の福井大松岡キャンパス

新型コロナウイルスの影響で大学などでのオンライン授業が続く中、福井大医学部附属教育支援センターとソフトウェア開発の永和システムマネジメント(福井市)は遠隔授業支援システムを共同開発し26日、発表した。教員、学生共通の掲示板に教員が講義動画や資料を配信し、掲示板にアップされた動画を学生が選択する仕組み。利便性が大幅に向上しているという。

(牧野将寛)

コロナ禍で、福井大など県内の多くの大学でオンライン授業が行われている。ただ、動画配信サイト「YouTube」やビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」など、教員によって配信ツールが異なっており、学生にとって不便があったという。

今回開発したシステムは、容量無制限のクラウドの教育サービスを利用。教員、学生それぞれがアプリを起動し、大学から割り当てられたアカウントを入力すれば共通の掲示板が表示される。教員は、掲示板に講義動画や資料などを配信し、学生は、あらかじめ選択している年間40〜50の履修科目のフォルダを開けるだけで、配信された講義動画が視聴できる。学生の質問などの自動集計や、学生の履修状況の把握もできる。福井大は5月から医学部で試行し、改善を重ねてきた。

永平寺町の福井大松岡キャンパスで会見した安倍センター長は「学生の体温なども一元管理でき、学生サポートの充実につながる」と強調。今後、他の学部でも活用する意向を示した。

福井大は、システムをインターネットで無償公開する方針。永和システムマネジメントの医学教育支援室の羽根田洋室長は「著作権は福井大にあるということを確認することで、ほかの大学なども安心して利用できるのではないかと話した。